

二、戦勝国と戦敗国との対立  
 三、帝国主義国と殖民地、属国との向における対立の尖鋭化  
 四、資本主義国内に於けるサルジョアジーとプロレタリアートの向に於ける対立の尖鋭化

(三) 在界資本主義の諸矛盾の以上の如き激化は、何ぞ意味してゐるか？、それは先ず第一、資本主義の安定が最後の破綻に到達したことを示してゐる。更にそれは戦争の激化が今や新大なる力を併せて勃発して、一切の反動勢力を利用して、幾々ファッショ化して、あることを、今や帝国主義戦争の危機が益々切迫してあることを、そして最後に、各国のプロレタリアートが、資本主義の攻撃と戦争の危機とに對して、最後の決戦を試みるべく、着々準備して、あることを、示してゐる。

(四) 在界資本主義に内在する諸矛盾のほかに、今一つの矛盾が存在してゐる。それは資本主義とソヴェット連邦との向に於ける矛盾である。この矛盾は、資本主義に内在する矛盾ではない。だが、社会主義の建設を目的としてゐるソヴェット連邦の存在は、在界資本主義の内部的諸矛盾を激化せしめ、ために資本主義の秩序を維持せんとしてゐる各国のサルジョアジーに對して、致命的打撃を与へる。

(五) 従つて、資本主義諸国のサルジョアジーは、なんとかしてソヴェット連邦を

つづけたいと思つてゐる。そして、そのためにソヴェット連邦に對する挑戦的攻撃が行はれ、不斷に干渉の準備がなされてゐるのである。

(六) 一方、ソヴェット連邦は、徹底的な平和政策を実行してゐるが、しかし資本主義諸国の武力的干渉に對しては、いつ何時までも断乎として手ふだいの準備をしてゐる。かくして、今や各国のサルジョアジーとソヴェット連邦との向に於ける矛盾は、在界資本主義の矛盾の増大につれて益々激化して、ある。

(B) 國內情勢

(イ) 國外資本主義(特にアメリカ資本主義)に依存する所最も多き日本資本主義は、現下の世界経済恐慌の大渦の中、極端にあへが苦しんでゐる。今や工業生産の全範圍に亘つて、極端な生産制限が行はれ、ある。更にまた、農村に於ても深刻なる恐慌状態が現れてゐる。

(ロ) かゝる状況の下に今や、各産業を通じて貸銀値下り、貸銀不拂ひ、労働の強化等々が行はれ、大量的破産が未曾有の範圍に亘つて漸行して、失業者の大群は文字通り街にみち、全労働者が、現に失業してゐる労働者、不斷に失業の脅威に悩まされてゐる。

(ハ) だが、労働階級も、無論、被害の攻撃に甘んじて屈服してゐる。最近に至つて、ストライキは未曾有の廣範なる範圍に亘り、その参加人も明かに激増してゐる。しかも、それらのストライキ斗争は、その